

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「保護者が答えを見付ける面談」

年長児の保護者を対象にした就学相談、学校では1学期を振り返る保護者面談や進路に関する三者面談が始まろうとしています。そこで、保護者面談のポイントを紹介します。

1 対話の四原則

- (1) 話すより聴こう（面談のゴールを複数用意して臨む）
- (2) 保護者の心情を理解しよう（表情や身体の変化を見抜いて心の動きを読み取る）
- (3) 結論を急がないようにしよう（ボタンのかけ違いを防ぐ）
- (4) 結論は保護者に言ってもらおう（保護者が答えを見付ける）



2 面談の配慮点

- ・最初に面談内容、ゴール、終わりの時刻を確認する（不安を和らげる）。
- ・保護者の話を能動的に聴く（相手の目を見る 相手に体を向ける）。
- ・内容（進路変更、検査の提案）によっては複数で対応する（コーディネーターが同席する）。
- ・共感と受容的態度で臨む（保護者の頑張りを認めながら、子どものよいところを伝える）。
- ・ゴールを意識して保護者の本音を聞き出す（表情が和らぐときを見逃さない）。
- ・細かい記録は取らず、あとで整理する（キーワードのみ記録し、傾聴する）。
- ・結論が出ない場合は、次の面談を提案する（期間を設けて子どもの変容を評価する）。

3 話しやすい状況づくり

- ・笑顔で話を聴く（雰囲気や和ませる、笑顔は最高のコミュニケーションツール）。
- ・アイコンタクトを送る（目線を相手の目元、頬から首の辺り、目で聴く）。
- ・姿勢を正す（人は態度で判断 腕・足組みは拒絶のシグナル）。
- ・深く頷く（もっと話してほしい 理解しているというメッセージ）。
- ・相づちをうつ（「なるほど・へえー」は話を引き出す効果がある）。
- ・表情・動作・言葉を合わせる（心を開くきっかけとなる）。
- ・キーワードを復唱する（伝わっている喜びを実感できる）。



人は独特の考え方をもち、独特の翻訳機を付けて、相手の言ったことを自分の都合のいいように翻訳しています。まずは保護者の話をじっくり聴きましょう。聴くことは、一石三鳥（①子どもの情報や保護者の心情を知ることができる、②保護者の存在を肯定できる、③保護者とよい関係を維持できる）です。保護者の話を聴きながら、情報提供を行い、最後に保護者及び子ども本人が答えを見付ける面談を目指しましょう。



とれたて直送便



「子育ては次の世代に引き継がれる？」

「どうしてできないの！」と、子どもを待てずに叱ってばかりいる自分が嫌です、厳しく育てられた親と、今、全く同じことをしている自分が嫌ですと、涙を流しながら話すお母さんがいました。親の年齢は子どもの年齢と同じです。だから、うまくいかないことがあっても当たり前です。「生まれてきてくれてありがとう」と、子どもの存在に感謝した気持ちを忘れずに、「おだやかに・くりかえし・ていねいに」を合い言葉に、子育てを楽しみましょうと伝えました。いい子だから可愛がるのではなく、可愛がられた子がいい子に育ちます。